

製品の経年劣化による事故に気を付けましょう

経年劣化とは？

ガス・石油機器や電気製品は、年月が経つうちに、摩耗・腐食その他の原因で劣化して、故障したり、事故をおこす恐れが高くなります。

事例1 風呂場から出火

- ▶ 石油ふろがまのゴム製の部品が劣化して石油がもれ、漏れた石油に火がついて出火した。
- ▶ 長期間の使用により、石油ふろがまの煙突接続部分が劣化して壊れていたため、火の粉が周囲に飛び散って屋根に着火して出火した。

事例2 洗濯機から出火

- ▶ 電機部品（コンデンサーなど）が劣化したり、内部の電気配線が振動により断線して発煙・出火した。

事例3 換気扇から出火

- ▶ モーターが劣化し、ショートして、発煙・出火した。
- ▶ コンセントの差し込みプラグ部分にほこりがたまり、トラッキング現象が生じて出火した。

※トラッキングとは、ほこりや湿気の影響で本来電気が流れない箇所が徐々に炭化していき、異常な電気が流れて発火に至る現象

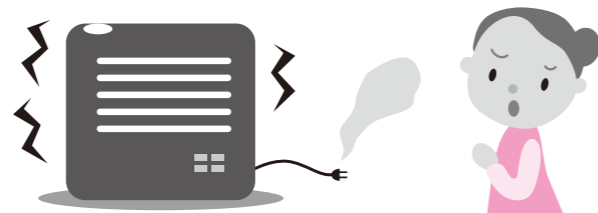
事故を防ぐにはどうすればいいの？

使用している製品に何か異常を感じたときには、すぐに使用を中止し、メーカーや販売店に相談してください。また、リコールの届け出があるかもしれませんので確認していただき、対象品だった場合にはすぐに事業者に連絡して下さい。

【異常の例】

- ▶ 電気コードやプラグが異常に熱い
- ▶ 焦げ臭いにおいがする
- ▶ 使用中に異常な音や振動がする
- ▶ 電源コードに傷や破れがある

など



リコールとは？

身の回りの製品による事故の再発を防止するため、製造事業者などが製品を無償で修理したり、回収を行うことです。リコール品による火災等の重大事故は、年間100件以上も発生しております。

どこで確認できるの？

- 新聞の社告、折込チラシ、メーカーのホームページ
- 消費者庁の「リコール情報サイト」(URL <http://www.recall.go.jp>)
- 商品を購入したときにユーザー登録をすると、リコール情報が届く場合があります
- 通信販売で購入した場合は、直接、購入者に届くこともあります



冬が来る前に、まずは暖房機器を点検してみましょう

路線バスでの転倒事故にご注意ください！

事例1 バスに乗るときの事故

バスに乗ろうとしたところ、バランスを崩して車外に転落し、道路の縁石に頭部を打って、外傷性くも膜下出血になった。(70歳代)

事例2 バス停から動き出すときの事故

杖をつき荷物を持ってバスに乗った。席に座るまで時間がかかった。席の前にたどり着いたところで発車したため転倒して大腿骨を骨折した。(80歳代)

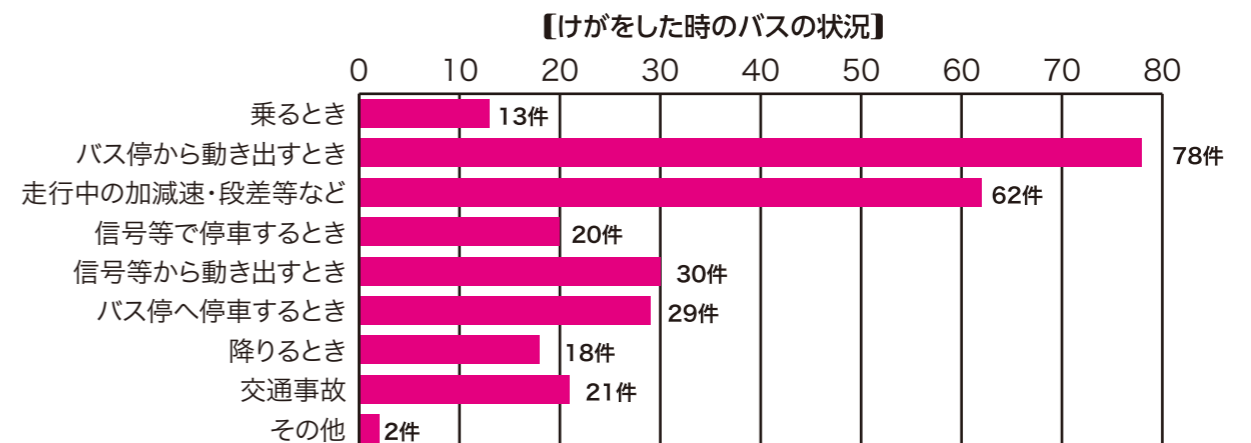
事例3 走行中の事故

バスが赤信号で減速していた。青信号になってバスが加速したため、転倒し、大腿骨を骨折した。(80歳代)

事例4 バス停へ停車するときの事故

バス停が近づいてきたので、降車するために走行中に立ち上がったところ、ブレーキで転倒し、腰椎を骨折した。(70歳代)

H21.9～H25.7までに報告のあった事故の状況



事故を防ぐにはどうすればいいの？

① 乗り降りするときも注意しましょう

乗り降りするときには手すりをつかみ、手元足元をしっかりと確認しましょう。また、不安定な履物は避け、手すりなどにつかまれるよう両手が空くバッグを使いましょう。

② バスが動き出すとき、停車するときは特に注意しましょう

バスに乗ったら着席し、バス停に停車するまでは立たないようにしましょう。座れなければ手すりやつり革にしっかりとかりましょう。また、停車していないうちに降車口へ移動することは危険です。

③ 走行中に移動しないでください

周囲の走行車両等の影響で、急ブレーキがかかることもあります。赤信号での短い一時停車時間でも、車両内を移動するのは止めましょう。

④ 現金払い以外の支払い手段も検討しましょう

両替のために走行中に移動すると転倒の危険性が高まります。ICカードなど現金払い以外の支払い手段を積極的に活用しましょう。

④ ご高齢者の方には積極的に席をゆずりましょう

高齢者には席や、つかまりやすい場所を積極的に譲るよう心掛けましょう。